

## 小杉駅周辺地区新設小学校学校名及び通学区域に関する聴聞会 記録

【日時】平成29年8月29日（火）18時30分～19時40分

【場所】今井小学校 特別活動室

【出席者】

<今井小学校>

佐藤校長（議長）、新名教頭（司会）

<教育委員会事務局（以下「市教委」という。）>

野本室長、渡辺担当課長（教育環境整備推進室）、古内課長（企画課）久保課長（学事課）、小林担当課長（学校教育部）、辻担当課長（健康教育課）

【出席者】23名

【聴聞事項】

### 1 学校名について

教育委員会事務局から資料1に基づき説明

### 2 通学区域について

教育委員会事務局から資料2に基づき説明

<質疑応答>

●特例措置案が適用された場合の学校規模の想定値を教えてください。

<市教委>

特例措置を行使しない前提での5年生の児童数を60名、6年生を49名、それぞれ2クラスと想定しています。仮に全児童が特例措置を行使した場合、4クラス分が新設校のクラス総数から除外されるため、10クラス程度の学校規模となる想定をしています。

●特例措置の対象学年を5・6年生とした理由を教えてください。

<市教委>

まとめの学年であること、これまで構築してきた友だち関係や先生との信頼関係、5年生は自然教室、6年生は修学旅行といった行事を控えていること等を考慮し、高学年を対象とした提案とさせていただきます。

●特例措置の対象とならなくても、指定変更手続きを行えば引続き今井小学校に通学できますか。

<市教委>

原則として、指定した通学区域の学校に通学していただいている中で、家庭の事情等で止むを得ないと判断した場合に限り通学する学校の変更を認める指定変更の制度を設定しています。今回は指定変更制度の特例措置として設定することになり、通学したい学校を選択していただくという制度ではありません。これらのことをふまえていただき、低学年、中学年において通学する学校を変更したい場合は、現在通学している学校及び通学したい学校の校長の所見を提出していただく必要があります。

●通学区域案のD案とG案において、新1・2・3・4年の児童数の差を教えてください。

<市教委>

全体規模の差としては、D案404名の14クラス、Gは332名の12クラスです。内訳と

しては1年・2年は12名、3年生8名、4年生16名、5年生11名、6年生13名です。

●この程度の差であれば、特に小杉町3丁目の南側の住んでいる児童には特例措置を設定してください。

●通学区域案の提案理由として、地域のまとまりを重視してとのことですが、他の学校の事例を確認したところ町名で区切っている事例は複数あります。今回の提案においては地域のまとまりを重視しているのはなぜですか。また、検討会議に地域のまとまりという重視してほしいという意見はいつ出されましたか。小杉町3丁目の南側は地域のまとまりという表現を使用することで通学区域とされることに市側の意図を感じます。

<市教委>

検討会議で議論を進める中で、地域のまとまりも重視してほしいという意見が出されました。

●小杉町2丁目地区は従来どおり地域のまとまりを重視するという方針だったことが、小杉町3丁目全域が通学区域とされた理由ではないですか。8案の通学区域案が提案されたことがそのことを物語っていると思います。

<市教委>

先ほども御説明させていただきましたが、新設校周辺の4校の増加対策を検討する中で上丸子小と中原小においてはそれぞれの学校で対応できる目処がつかいましたが、今井小学校はこれ以上、増築校舎を設置することが難しく新設校に隣接している小杉町3丁目を通学区域とする案を提案させていただきました。

●なぜ、このような通学区域案が提案されたか理解に苦しむ一つに、将来的に新設校の学校規模の増大に対し、児童増加が対応しきれないと思います。

<市教委>

受入れ可能です。

●改めて、地域のまとまりを重視してほしいとの意見がいつ出されたのかを明確にしてほしいです。また、特例措置は全学年を対象として欲しいです。

●地域のまとまりを重視するとの提案理由ですが、小杉町3丁目では7月に開催されたお祭りがあった際、案内すらありませんでした。お祭りは地域一体で行うものだと思いますが、そのような状況において、地域のまとまりと言われても納得し難いです。

<市教委>

現状、町内会と大規模集合住宅の関係性において関係性が希薄な部分があるということは認識しています。一方で新設校の役割の一部として、そのような関係性の改善に向けて担える部分があるのではないかと考えています。

●これから子ども達をとおして地域のまとまりを構築してほしいということですか。

<市教委>

子ども達はもちろんのこと保護者の方も含めて、地域のまとまりを構築して行ってほしいと思います。

●地域のまとまりを重視したいという提案理由と先ほどお伝えした現状に違和感を覚えます。

<市教委>

先ほども御説明させていただきましたが、特に今井小学校の増加対策を検討せざるを得ない

状況下で、新設校に隣接している小杉町3丁目を通学区域案として提案させていただきました。また、地域活動や学校活動を行っていく上で、現在の小杉町3丁目の地域の現状をふまえ、今後、改善していただきたいという意味も込めて、小杉町3丁目全体を通学区域と提案させていただきました。

●今井小学校の増加対策の必要性は保護者も認識しています。しかしながら、今井小学校に通学していることのみが地域との繋がりと言える状況です。それを断ち切らせる提案をしていることに納得できません。そのような状況を鑑みた提案をしてほしいです。

<市教委>

今井小の増加対策として隣接して小杉町3丁目を新設校の通学区域として提案し、地域全体とするのか一部とするのか議論を進める中で、地域のまとまりを重視してほしいとの意見が出されました。

●新1年生となる際等に各家庭の事情により同じマンションに住んでいるにも関わらず、異なる学校に通学している事例は多数あると思います。そのことが31年の開校時にも想定されるが、一方で2年生から4年生の子どもたちは通学区域だから新設校に通学してもらおうということでは、納得できない保護者も出てくると思うので、先ほども発言がありましたが、対象児童に意向調査をすべきではないかと思います。そして、その結果をふまえて柔軟な対応をすべきではないかと思います。また、地域のまとまりの話がありましたが、大規模集合住宅はエリアマネジメントに参加している中で、小杉町3丁目の会長がどのような発言をされているか気になります。さらに本日の聴聞会は夜間のみの開催だが、興味がなくて参加しないのではなく、家庭の事情で参加したくてもできない人が多数いるのではないかと思いますので、今日の情報は出席できない方にも届けてください。

<市教委>

ご要望として承ります。

●通学区域案と提案するにあたり予見性がないのではないかと思います。また、新設校に関する情報は様々な媒体を使って整理して情報を提供していただいていると思いますが、全体の情報量が少ないように感じます。この発言は誰がされて、どのような検討経過を経て決定した事項なのか等の詳細な情報を丁寧に提供してください。また、以前アンケートは実施されたと思いますが、現在の状況をふまえてアンケートを実施していただき、子ども達や保護者が何を不安に思っているか等を把握してほしいです。

<市教委>

ご要望として承ります。

●特例措置に該当しない場合は指定変更手続きの必要があると思います。手続きの仕方をHPで確認しましたが、今回も同様の手続きとなるのでしょうか。また、所見は校長の判断が大きいと思いますが、ガイドラインのようなものが作成されるのでしょうか。さらに校長から希望する所見が得られず指定変更ができなかった際に救済措置のようなものがあるのでしょうか。

<市教委>

手続きは従来通りの手続きと同様です。指定変更の手続きは2校長の所見に基づき区長が最終判断しますが、所見の中身が現在の学校に引続き通学してもらおうことが望ましいというような内

容だにご希望に沿うことは難しいと思います。

●保育園児の保護者だが新設校に関する情報が入ってこないで、工夫して広報してほしい。  
<市教委>

区内の保育園や幼稚園には新校ニュースを配布し広報に御協力いただいておりますが、今後も広報の方法は工夫していきたいと思います。

●HPで検討経過を確認してきましたが、地域のまとまりを重視してほしいという考え方は理解しますが、小杉町3丁目の一部に市ノ坪上町町会があり、丁目と町会は同一でないにもかかわらず、小杉町3丁目にこだわるのか理解できません。また、府中街道と南武沿線道路の大きな幹線道路を2つ渡ることについて、安全性よりも地域のまとまりを重視した理由を教えてください。  
<市教委>

通学路の設定は通学区域確定後に、通学路や安全性について検討し決定する計画となっております。

●通学路の安全性も通学区域の検討の中に含まれていると思いますが、安全性よりも地域のまとまりを重視した理由を教えてください。

<市教委>

通学路の安全性は、今後、安全対策を検討していく予定です。

●冒頭にも述べましたが、丁目と町会が同一でないにもかかわらず地域のまとまりを重視した経過をHP等で教えてください。

<市教委>

ご要望として承ります。

●現在、今井小学校に通学している児童で学校までの距離が一番遠い子どもが、新設校に通学した場合に何分かかかるか把握していますか。また、最終的に通学区域等が決定するのはいつになりますか。さらにこれまでの保護者の様々な意見よりも、検討会議での意見が重視されることになるのでしょうか。

<市教委>

通学時間については、現在、把握していないため今後、確認します。10月末頃の教育委員会において通学区域を決定する予定です。また、全ての御意見等が重要だと認識しています。

●地域のまとまりやコミュニティよりも、通学路の危険はこのように想定していて、それに対する対策はこのように実施する予定です、というような児童の安全性等を優先的に検討し、子どもや保護者が安心するような手順で提案してください。

<市教委>

現在、通学区域案をもとに通学路及びその安全対策の検討も始めたところです。一部の例を挙げると幹線道路と同様に改善の必要性の御指摘をいただいているJR南武線の高架下付近を通学路として設定するか、迂回させるべきか等、安全性を第一に今後、検討を本格的に進め、さきほどもお話があった通学時間等のシミュレーションも行っていきたいと思います。

以上